

WebSAM

JobCenter

＜UCXSingle ジョブ利用ガイド^{R12.9}＞

- Windows 2000, Windows XP, Windows Server 2003, Windows Server 2008 は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。
- UNIX は、The Open Group が独占的にライセンスしている米国ならびに他の国における登録商標です。
- Solaris は、米国 Sun Microsystems 社の登録商標です。
- SAP, ERP, BI は、SAP AG の商標もしくは登録商標です。
- HP-UX は、米国 Hewlett-Packard 社の商標です。
- AIX は、米国 IBM Corporation の商標です。
- NQS は、NASA Ames Research Center のために Sterling Software 社が開発した Network Queuing System です。
- SVF、Super Visual Formade、Universal Connect は、ウイングアーク テクノロジーズ株式会社の登録商標です。
- その他、本書に記載されているソフトウェア製品およびハードウェア製品の名称は、関係各社の登録商標または商標です。

なお、本書内では、®、TM、©の記号は省略しています。

輸出する際の注意事項

本製品（ソフトウェア）は、外国為替令に定める提供を規制される技術に該当いたしますので、日本国外へ持ち出す際には日本国政府の役務取引許可申請等必要な手続きをお取り下さい。

許可手続き等にあたり特別な資料等が必要な場合には、お買い上げの販売店またはお近くの当社営業拠点にご相談下さい。

はじめに

本書は、『JobCenter R12.9』の UCXSingle ジョブによる SVF 連携機能の概要等について説明しています。なお、本書内に記載されている画面例と実際の画面とは異なることがありますので注意してください。

本書の内容は将来、予告なしに変更する場合があります。あらかじめご了承ください。

• 読み方

JobCenter を新規にインストール、またはバージョンアップされる場合

→ インストールガイドを参照してください。

JobCenter を初めて利用される場合

→ クイックスタート編を目次に従いお読みください。

JobCenter の基本的な操作方法を理解したい場合

→ 基本操作ガイドを目次に従いお読みください。

環境の構築や各種機能の設定を理解したい場合

→ 環境構築ガイドを参照してください。

その他機能についてお知りになりたい場合

→ 関連マニュアルの内容をお読みいただき、目的のマニュアルを参照してください。

• 凡例

本書内での凡例を紹介します。



：気をつけて読んでいただきたい内容です。

注 :本文中につけた注の説明

備考 :本文中の補足説明

• 関連マニュアル

JobCenter に関するマニュアルです。JobCenter メディア内に格納されています。

最新のマニュアルは、**JobCenter 製品サイトのダウンロードのページ**を参照してください。

URL : <http://www.nec.co.jp/middle/WebSAM/products/JobCenter/download.html>

資料名	概要
JobCenter インストールガイド	JobCenter を新規にインストール、またはバージョンアップする場合の方法について説明しています。
JobCenter クイックスタート編	初めて JobCenter をお使いになる方を対象に、JobCenter の基本的な機能と一通りの操作を説明しています。
JobCenter 基本操作ガイド	JobCenter の基本機能、操作方法について説明しています。
JobCenter 環境構築ガイド	JobCenter を利用するために必要な環境の構築、環境の移行や他製品との連携などの各種設定方法について説明しています。
JobCenter NQS 機能利用の手引き	JobCenter の基盤である NQS の機能を JobCenter から利用する方法について説明しています。
JobCenter クラスタ機能利用の手引き	クラスタシステムで JobCenter を操作するための連携方法について説明しています。
JobCenter SAP 機能利用の手引き	JobCenter を SAP と連携させるための方法について説明しています。
JobCenter インポート・エクスポート機能利用の手引き	ユーザ環境のバックアップや環境の移行の際に必要な、JobCenter 上のジョブネットワーク定義、スケジュール定義およびカレンダー定義のインポート・エクスポート機能について説明しています。
JobCenter 操作・実行ログ機能利用の手引き	JobCenter CL/Win からの操作ログ、ジョブネットワーク実行ログ取得機能および設定方法について説明しています。
JobCenter テンプレートガイド	JobCenter に標準添付されている各種テンプレートの利用方法について説明しています。
JobCenter コマンドリファレンス	GUI と同様にジョブネットワークの投入、実行状況の参照などをコマンドラインから行うために、JobCenter で用意されているコマンドについて説明しています。
JobCenter UCXSingle ジョブ利用ガイド	本書

• 改版履歴

版 数	変更日付	項 目	形 式	変更内容
1	2010/07/16	新規作成	—	第 1 版
2	2011/07/15	修正	—	誤記を複数修正

目 次

1. UCXSingleジョブの概要	7
1.1 ライセンスについて	8
1.2 UCXSingleジョブの動作環境	9
1.2.1 対応OS	9
1.2.2 システム構成	10
1.3 UCXSingleジョブの機能概要	12
2. UCXSingleジョブを使用する	13
2.1 UCXSingleコマンドの実行環境をセットアップする	14
2.2 UCXSingleジョブの実行環境をセットアップする	15
2.3 UCXSingleジョブを作成、実行、監視、制御、確認する	17
2.3.1 UCXSingleジョブを作成する	18
2.3.2 UCXSingleジョブを実行する	19
2.3.3 UCXSingleジョブトラッカを監視する	20
2.3.4 UCXSingleジョブトラッカを操作する	21
2.3.5 UCXSingleジョブの実行結果を確認する	22
3. UCXSingleジョブのパラメータを設定する	23
3.1 UCXSingleコマンドオプションとの対応一覧	24
3.2 UCXSingleジョブの実行条件（パラメータ）を設定する	25
4. UCXSingleジョブトラッカアイコンを操作する	33
4.1 UCXSingleジョブトラッカアイコンの状態	33
4.2 UCXSingleジョブトラッカアイコンの操作	34

4.3 UCXSingleジョブトラックウィンドウの詳細情報を参照する
 36

5. UCXSingleジョブの関連機能 38

5.1 部品オブジェクトの設定について 39

- 5.1.1 UCXSingleジョブの後ろに条件分岐部品を配置する 39
- 5.1.2 コンティニューの行き先にUCXSingleジョブを設定する 40
- 5.1.3 ジョブ待ち合わせでUCXSingleジョブを待ち合わせする 41

5.2 部品検索でUCXSingleジョブのトラックを検索する 42

5.3 UCXSingleジョブのデフォルトパラメータを設定する 43

5.4 エラー発生時のメール送信機能について 44

- 5.4.1 件名、本文に使用可能なマクロについて 44

6. UCXSingleジョブの注意事項・制限事項 ... 45

6.1 注意事項 46

6.2 制限事項 47

7. UCXSingleジョブのトラブルシューティング 48

7.1 トラブルシューティングQ&A 49

1. UCXSingle ジョブの概要

UCXSingle ジョブとは、ウイングアーク テクノロジーズ株式会社が提供している Universal Connect/X の外部コマンドである UCXSingle の命令として実行される単位です。Universal Connect/X で設定されている動作設定名(JOBID)等を UCXSingle ジョブのパラメータとして指定し、JobCenter から呼び出すことによって、任意のタイミングで帳票の出力を行うことが可能になります。

本書の内容は将来、予告なしに変更する場合があります。あらかじめご了承ください。

-
- 1.1 ライセンスについて
 - 1.2 UCXSingleジョブの動作環境
 - 1.3 UCXSingleジョブの機能概要

1.1 ライセンスについて

UCXSingle ジョブの機能は、JobCenter のオプションとして別途有償にて提供されているものです。本機能を利用したい場合は、別途ライセンスの購入が必要となります。

本オプションのマニュアルは PDF 形式で JobCenter の Web サイトより提供されています。

1.2 UCXSingle ジョブの動作環境

1.2.1 対応OS

JobCenter の UCXSingle ジョブの機能と OS の対応を紹介します。

- JobCenter CL/Win 側の対応 OS

JobCenter CL/Win が対応している全ての OS において、UCXSingle ジョブのビューア機能を提供します。

- JobCenter MG (UCXSingle ジョブの定義、監視、制御機能) の対応 OS

本マニュアルのバージョンの JobCenter がサポートする HP-UX(IPF)および、Windows のプラットフォームで、UCXSingle ジョブの定義、監視、制御機能を提供します。つまり、ジョブネットワーク定義が配置されているマシンが、本マニュアルのバージョンの JobCenter がサポートする HP-UX(IPF)もしくは、Windows である必要があります。

なお、HP-UX(PA-RISC)、Linux、Solaris、AIX のプラットフォームについては、UCXSingle ジョブの定義、監視、制御機能は未サポートとなります。

- JobCenter SV (UCXSingle ジョブの実行) の対応 OS

UCXSingle ジョブを JobCenter MG から JobCenter SV に転送して実行することができます。

UCXSingle ジョブの実行機能を提供するプラットフォームは、本マニュアルのバージョンの JobCenter がサポートするプラットフォームであり、なおかつ Universal Connect/X が提供する UCXSingle コマンドがサポートするプラットフォームである必要があります。

1.2.2 システム構成

(1) 構成例 1

帳票データ作成サーバ（データファイルを生成するアプリケーションサーバ）にJobCenter SVを導入する構成の場合、実行環境の構成例は、図 1-1のようになります。

なお、JobCenter SV 上のデータファイルはファイル待ち合わせ部品にて待ち合わせが可能です。

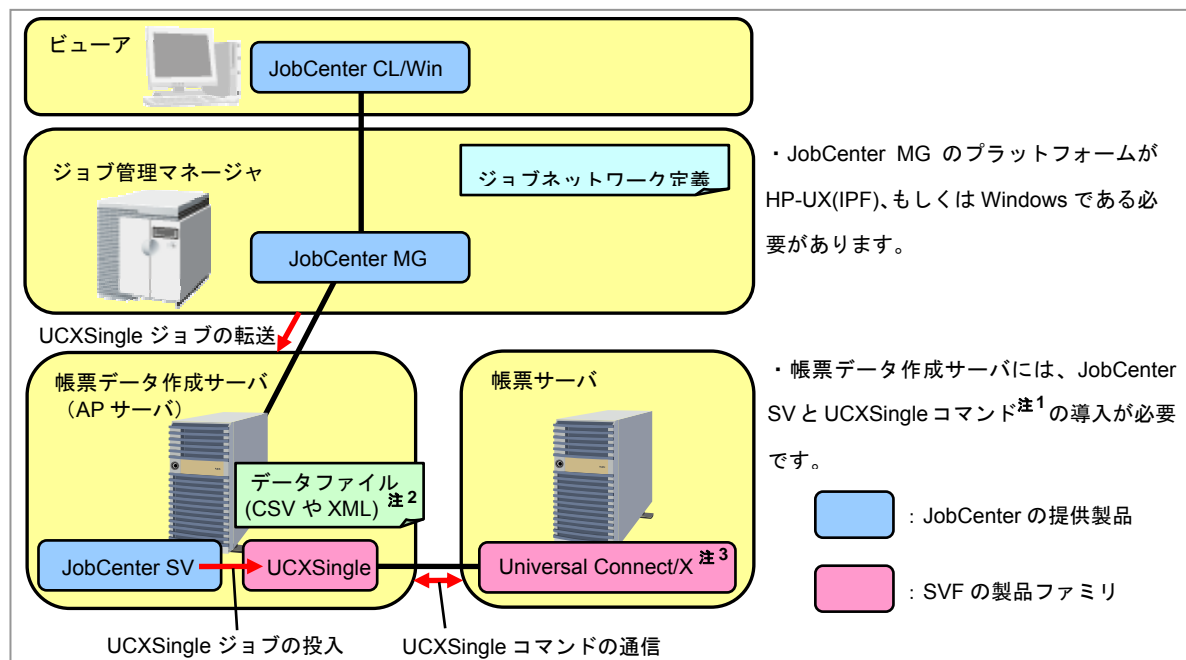


図 1-1 JobCenter の実行環境の構成例 1

(2) 構成例 2

ジョブ管理マネージャが帳票データ作成サーバを兼ねる構成の場合、実行環境の構成例は、図 1-2のようになります。なお、ジョブ管理マネージャや帳票データ作成サーバの負荷が高い場合、この構成は推奨されません。ジョブ管理マネージャ上にはJobCenter SVのライセンスが必要です。

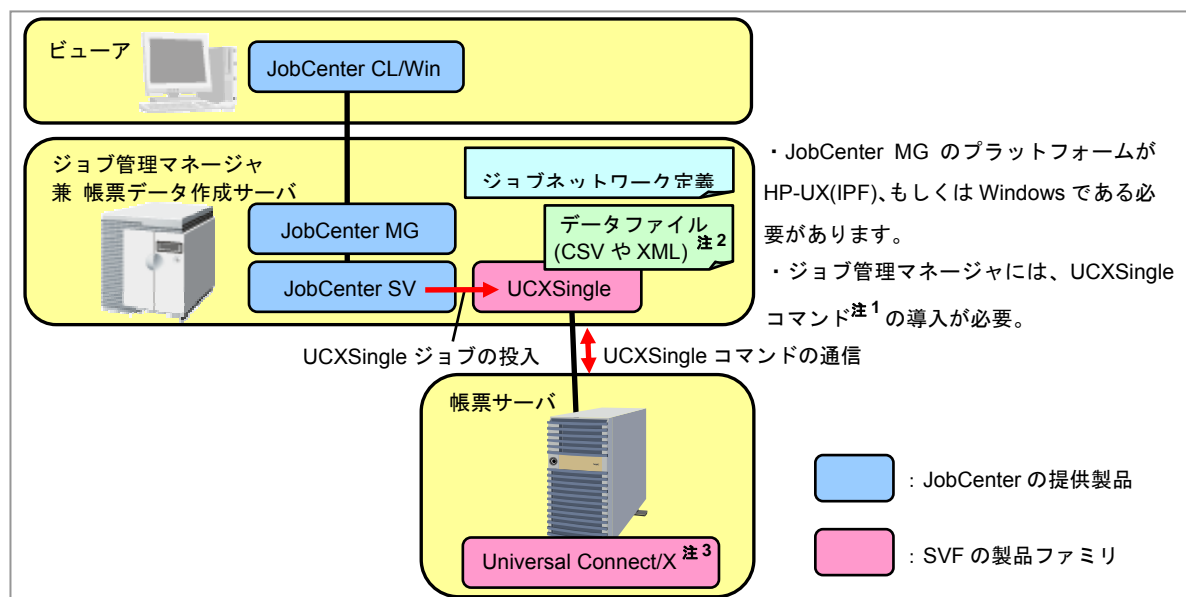


図 1-2 JobCenter の実行環境の構成例 2

- 注 1. UCXSingle ジョブが対応している UCXSingle コマンドは、C 版のみです。Java 版には対応していません。
- 注 2. 図 1-1 や 図 1-2 は、データファイル（CSVやXMLといった帳票データ）をUCXSingleによって帳票サーバに送信する構成例です。帳票サーバと帳票データ作成サーバが同一ホストであるなど、データファイルが事前に帳票サーバ側に配置されている場合、データファイルを送信する必要はありません。
- 注 3. Universal Connect/X は UCXSingle の要求を受け付けますが、PDF 出力やプリンタ出力には SVF Java PRODUCTS が必要です。SVF 側の製品構成については、別途、SVF 担当者までご確認ください。



帳票として作成した PDF ファイルを UCXSingle ジョブの設定によりダウンロードすることができません。この場合、PDF ファイルがダウンロードされるホストは、UCXSingle のモジュールが配置されるホストになります。

1.3 UCXSingleジョブの機能概要

(1) JobCenterにより管理するメリット

UCXSingle の処理を JobCenter により管理するメリットは、次のとおりです。

■構築、システム変更時のメリット

ジョブネットワーク上に UCXSingle の処理をジョブとして配置できるので、複雑な業務処理と UCXSingle の処理を JobCenter のビューアを用いて視覚的に構築することができます。

UCXSingle コマンドを UCXSingle ジョブのパラメータとして設定でき、必須項目や実行不可能なコマンドオプションの組み合わせを JobCenter がチェックしてユーザに知らせます。

■運用、保守のメリット

UCXSingle の処理の保留やスキップ、即時実行や投入スケジュールの変更、パラメータの設定内容の一時変更などが JobCenter により柔軟に行うことができます。

UCXSingle ジョブの専用キューに対して UCXSingle ジョブの同時実行数が設定できます。一度に大量の UCXSingle コマンドが起動されることを防ぎ、リソースの適正な利用が見込めます。

JobCenter 再起動時の UCXSingle ジョブのリスタートが設定できます。クラスタ環境などでのジョブマイグレーションが可能です。^{※1}

■監視、監査上のメリット

UCXSingle の処理を JobCenter から実行することによって、関連する処理を含め、トラッカ情報やログとして実行履歴、および操作履歴を管理することができます。

注1 UCXSingle コマンド（および UCXSingle ジョブ）には UCX サーバの帳票出力の結果が正常か異常かを別途問い合わせる機能はありません。UCX サーバ側にて帳票出力の処理を正常に完了し、UCXSingle コマンドが結果を受け取る前にサーバがダウンした場合、UCXSingle ジョブのリスタートには帳票の二重出力の可能性がります。システム構築の際は上記を十分考慮の上、機能をご利用ください。

(2) UCXSingleジョブの機能

UCXSingleジョブでは、帳票の出力について以下のような処理が可能です。機能の詳細については、「3 UCXSingleジョブのパラメータを設定する」を参照してください。

■JobCenter SV 上のデータファイル（帳票の入力データ）を Universal Connect/X のサーバ（UCX サーバ）に転送し、帳票の出力を行うことができます。

■出力された帳票を UCX サーバから JobCenter SV 上にダウンロードすることができます。

■出力した帳票のページ数、および、RDE（Report Director Enterprise）のサーバにスプールされた文書管理番号を JobCenter のトラッカ情報から確認することができます。

2. UCXSingle ジョブを使用する

UCXSingle ジョブの設定方法、および実行方法について説明します。

なお、UCXSingle コマンドの使い方、UCX サーバの機能については、ウイングアーキテクノロジーズ提供のマニュアルを参照してください。

-
- 2.1 UCXSingle コマンドの実行環境をセットアップする
 - 2.2 UCXSingle ジョブの実行環境をセットアップする
 - 2.3 UCXSingle ジョブを作成、実行、監視、制御、確認する

2.1 UCXSingleコマンドの実行環境をセットアップする

JobCenter から利用する UCXSingle コマンドの実行環境について、事前に以下の事項について必ず確認を行ってください。

作業に際しては、ウイングアークテクノロジーズ株式会社提供のマニュアル類を参照してください。



事前確認事項

- ◆ 帳票サーバとなるマシンへの Universal Connect/X のインストール、セットアップ、および動作確認が完了している。
- ◆ Universal Connect/X の外部コマンドである UCXSingle コマンド (C 版) のバイナリモジュールが UCXSingle ジョブを実行する JobCenter SV マシン上に用意できている。
- ◆ UCXSingle ジョブが実行される JobCenter SV がインストールされた (もしくは、インストールする予定の) のマシン (UCX クライアントマシン) 上の端末から、UCX サーバに対して UCXSingle が利用する 44080 番のポート番号が使用可能である。
- ◆ 動作設定名 (JOBID) および UCX サーバ名などを指定して UCXSingle コマンドが正常に実行できること。また、その実行結果を受け取ることができること。

2.2 UCXSingleジョブの実行環境をセットアップする

JobCenter から UCXSingle ジョブを実行するための環境のセットアップ方法について説明します。

(1) バージョンを確認する

JobCenter MG、UCXSingle ジョブが実行される JobCenter SV（構成によっては JobCenter MG と同一マシン）、および、JobCenter CL/Win のバージョンが R12.9 であることを確認してください。

なお、上記の JobCenter MG とは、UCXSingle ジョブを含むジョブネットワーク定義が格納されるジョブ管理マネージャのことです。

(2) UCXSingleコマンドを格納する

UCXSingle ジョブを実行する JobCenter SV のマシン上の任意のパスに UCXSingle コマンド（C 版）のバイナリモジュールを格納します。

アクセス権限について、任意のユーザからの実行権限を付与してください。

- ◆ 設定例（JobCenter SV が HP-UX(IPF)の場合）

```
chmod 111 UCXSingle-Hpux_IPF
```

(3) UCXSingle実行環境設定ファイル（ucxsconf.f）を格納する

<1> 格納場所

JobCenter MG の以下の場所に UCXSingle ジョブの実行環境を設定するファイル(ucxsconf.f) を格納します。

- ◆ UNIX の場合

```
/usr/lib/nqs/ucxs/ucxsconf.f
```

- ◆ Windows の場合

```
%JobCenterInstallDirectory%\etc\ucxsconf.f
```

備考 クラスタ環境の場合は、運用系、待機系の両サーバの上記パスに同一のファイルを格納してください。

<2> アクセス権限（UNIXの場合）

アクセス権限について、root ユーザからの読み取り権限を付与してください。

- ◆ UNIX の場合の設定例

```
chmod 644 /usr/lib/nqs/ucxs/ucxsconf.f
```

<3> 設定ファイルの記述方法

設定ファイルには、1 行につき 1 つの設定項目を記載します。各行はラベル名より始まり、半角スペースもしくはタブで区切り、設定内容を記述して必ず改行してください。

```
ラベル名 設定内容←
```

ucxsconf.f ファイルには以下の項目を設定することができます。

表 2-1 設定ファイル ucxsconf.f の設定項目

ラベル名	設定内容
cmdpath	UCXSingle コマンドの配置場所を絶対パスにて記述してください。 設定が必須です。
queue	UCXSingle ジョブを投入するキューを記述してください。 設定が必須です。

備考 なお、/usr/lib/nqs/ucxs/ucxsconf.def というファイルは、ucxsconf.f の設定項目に関する説明が記述されています。

◆ ucxsconf.f ファイルの設定例 (JobCenter SV が HP-UX(IPF)の場合)

```
cmdpath /usr/lib/nqs/ucxs/UCXSingle_Hpux-IPF
queue ucxsjobqueue
```

(4) JobCenter MGを起動する

JobCenter の起動時に JobCenter は、UCXSingle ジョブの実行環境を設定するファイル (ucxsconf.f) を読み込みます。設定内容を変更した場合、JobCenter を再起動してください。

備考 ucxsconf.f の設定内容が正常に読み込まれた場合、UNIX 版 JobCenter の場合、/usr/spool/nqs/log/jeerr.log にその設定値が出力されます。(クラスタ環境の場合は、共有ディスク上の<JobCenterDB パス>/log/jeerr.log)

• jeerr.log の出力例 (JobCenter MG が HP-UX(IPF)の場合)

```
-----
Tue Apr 7 13:10:43 2009
svucxs_InitUCXSj(415): jnwendine(ucxs-option):      cmdpath      =
/usr/lib/nqs/ucxs/UCXSingle-Hpux-IPF
svucxs_InitUCXSj(421):> jnwendine(ucxs-option): queue = ucxsjobqueue
-----
```

以上で UCXSingle ジョブの実行環境のセットアップは終了です。

2.3 UCXSingleジョブを作成、実行、監視、制御、確認する

- 2.3.1 UCXSingleジョブを作成する
- 2.3.2 UCXSingleジョブを実行する
- 2.3.3 UCXSingleジョブトラッカを監視する
- 2.3.4 UCXSingleジョブトラッカを操作する
- 2.3.5 UCXSingleジョブの実行結果を確認する

2.3.1 UCXSingle ジョブを作成する

UCXSingle ジョブを作成する方法について説明します。

(1) JobCenter のビューアで接続する

まず、JobCenter CL/Win を起動して JobCenter MG に接続し、[ユーザフレーム] の [ジョブネットワーク一覧] を開いてください。

備考 操作方法については、「JobCenter 基本操作ガイド」の「2.2 GUI 画面を起動する」、「2.3 サーバへ接続する」、および「2.5.1 ユーザフレームを表示する」を参照してください。

(2) ジョブネットワークを新規作成し、表示する

UCXSingle ジョブを配置するためのジョブネットワークを新規に作成し、ジョブネットワークを表示します。

備考 操作方法については、「JobCenter 基本操作ガイド」の「3.1.2 ジョブネットワークを新規作成、削除する」の (1) および、「3.1.3 ジョブネットワークを表示する」を参照してください。

(3) ジョブネットワークにUCXSingleジョブを配置する

- ① [オブジェクト] ツールバーの [UCXSingle ジョブ] オブジェクトのアイコンをクリックし、十字のカーソルを配置したい場所に移動させ、クリックします。

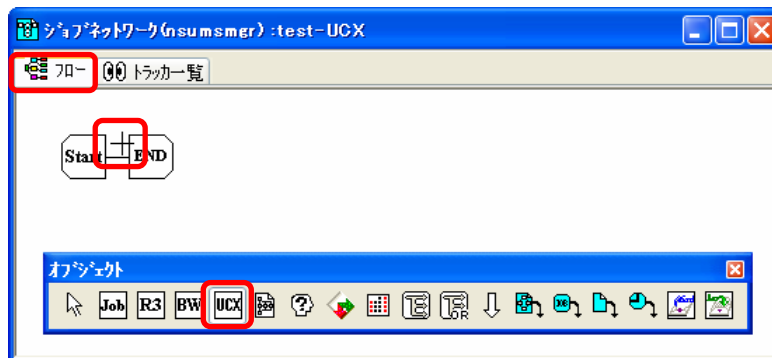


図 2-1 UCXSingle ジョブアイコンの追加

- ② [ジョブ名の設定] ダイアログが表示されますので、UCXSingle ジョブ名を設定します。

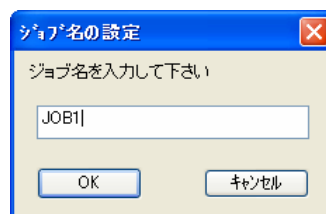


図 2-2 新規 UCXSingle ジョブ名の設定例

! UCXSingle ジョブの名前を設定する際の注意事項は、単位ジョブと同じです。詳細については、「JobCenter 基本操作ガイド 3.1.4 単位ジョブアイコンを追加する」を参照してください。

- ③ 設定後、[OK] ボタンをクリックします。

- ④ 新規 UCXSingle ジョブが追加されたジョブネットワークが表示され、[UCXSingle ジョブパラメータの設定] ダイアログが表示されます。

(4) UCXSingleジョブパラメータの設定ダイアログを設定する

ここでは、必須の設定項目である動作設定名、および、UCX サーバ名(または IP アドレス)のみを記述してください。

備考 UCXSingleジョブパラメータの設定の詳細については、「3 UCXSingleジョブのパラメータを設定する」を参照してください。

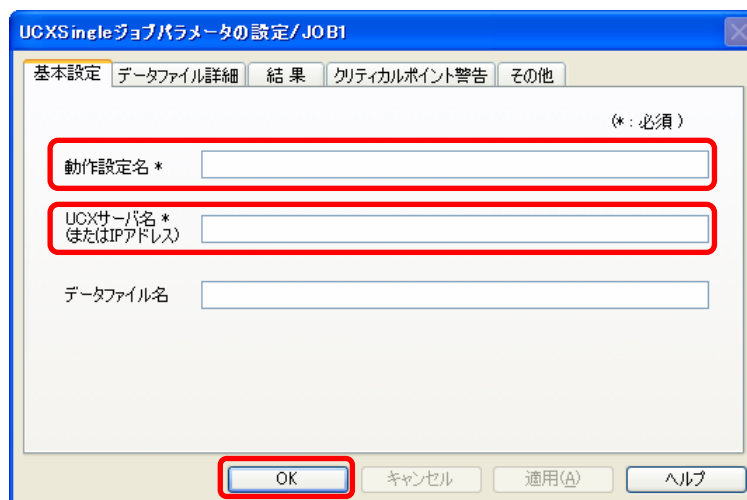



図 2-3 UCXSingle ジョブパラメータの設定ダイアログの画面例

- ① 動作設定名を記述します。
- ② Universal Connect/X のサーバ名、もしくは、IP アドレスを指定します。サーバ名を指定する場合は、名前解決が可能となるようサーバをセットアップしてください。テキスト入力域に半角英数字で、最大 255 文字以内で入力します。
- ③ 設定後、[OK] ボタンをクリックします。

(5) ジョブネットワークを保存する

作成したジョブネットワークのフローを保存します。

- ① メニューバーの [ファイル] - [保存] を選択するか、ツールバーの  アイコンをクリックします。作成したジョブネットワークのフローが保存されます。

2.3.2 UCXSingleジョブを実行する

UCXSingleジョブを実行するには、「2.3.1 UCXSingleジョブを作成する」で作成したジョブネットワークを即時投入するか、スケジュール実行します。

備考 操作方法については、「JobCenter 基本操作ガイド 3.2 ジョブネットワークの実行」を参照してください。スケジュール実行の場合は、「5.1 スケジュールを作成する」もあわせて参照してください。

2.3.3 UCXSingleジョブトラッカを監視する

JNW の投入ダイアログで、[トラッカウィンドウを開く] のチェックが ON に設定されていると、即時投入が行われるとトラッカウィンドウが開きます。

なお、スケジュール実行をした場合は、ユーザフレームのトラッカー一覧やジョブネットワークのトラッカー一覧などから該当するジョブネットワークのトラッカウィンドウを開きます。

備考 トラッカー一覧の表示方法については、「JobCenter 基本操作ガイド 6. ジョブの監視と管理（トラッカの使用方法）」を参照してください。

UCXSingle ジョブアイコンの表示が、 から  に変われば実行は終了です。

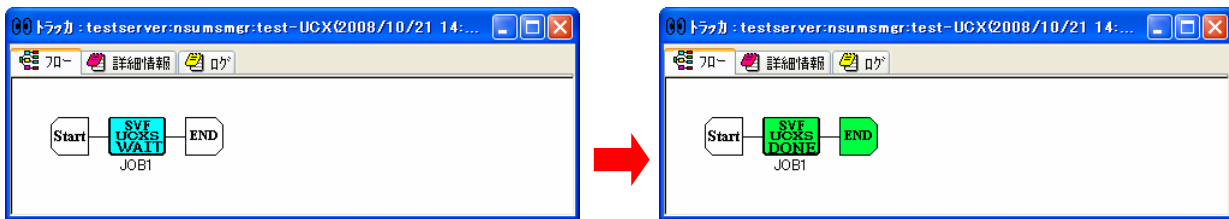


図 2-4 即時投入実行後のジョブネットワークトラッカウィンドウの例



UCXSingle ジョブが異常終了した場合、下記の3点をご確認ください。

- ◆ ジョブネットワークトラッカのログ情報
- ◆ UCXSingleジョブの [詳細情報] タブの終了理由（「2.3.5 UCXSingleジョブの実行結果を確認する」に従って操作し、確認します。）
- ◆ UCXSingle ジョブの [エラー出力結果] タブの内容

2.3.4 UCXSingleジョブトラッカを操作する

UCXSingle ジョブトラッカアイコンを右クリックしてメニューを選択すると、UCXSingle ジョブトラッカを操作できます。

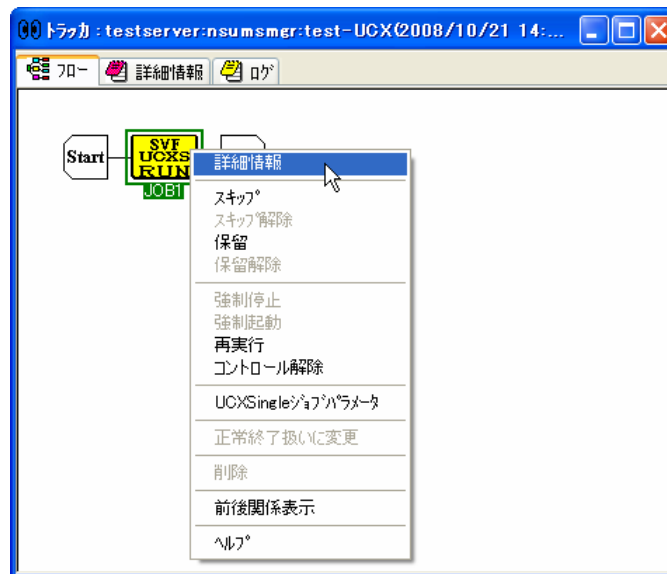


図 2-5 実行中の UCXSingle ジョブトラッカの操作画面例

備考 UCXSingleジョブトラッカの操作項目については、「4.2 UCXSingleジョブトラッカアイコンの操作」を参照してください。

2.3.5 UCXSingleジョブの実行結果を確認する

UCXSingle ジョブトラッカアイコンをダブルクリックまたは右クリックしてメニューから「詳細情報」を選択すると、UCXSingle ジョブの実行結果の詳細を確認できます。

- ① UCXSingle ジョブアイコンを選択し、右クリックしたときのポップアップメニューの「詳細情報」を選択します。

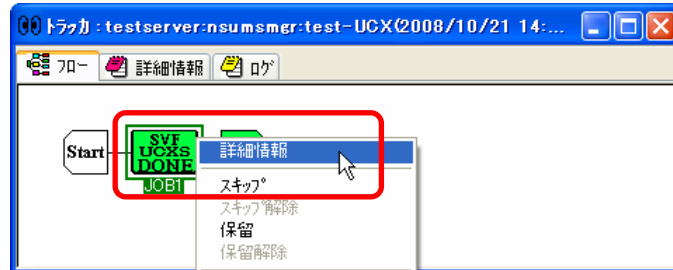


図 2-6 「詳細情報」選択画面例

- ② 詳細情報のウィンドウが表示されます。デフォルトで「詳細情報」タブが選択されていますので、内容を確認します。

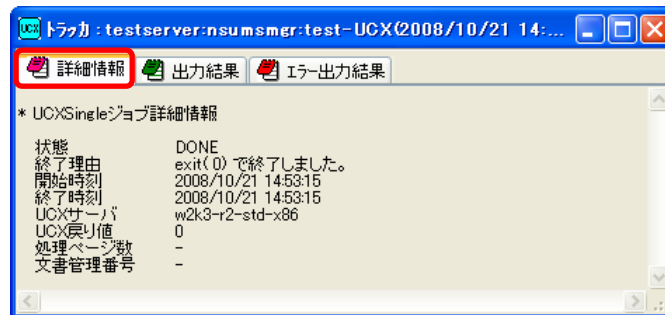


図 2-7 詳細情報表示例

備考 UCXSingleジョブトラッカの詳細情報のウィンドウについては、「4.3 UCXSingleジョブトラッカウィンドウの詳細情報を参照する」を参照してください。

3. UCXSingleジョブのパラメータを設定する

-
- 3.1 UCXSingleコマンドオプションとの対応一覧
 - 3.2 UCXSingleジョブの実行条件（パラメータ）を設定する

3.1 UCXSingle コマンドオプションとの対応一覧

JobCenter の UCXSingle ジョブのパラメータ設定と Universal Connect/X の UCXSingle コマンドオプションの対応は以下の通りです。

表 3-1 パラメータの設定項目と UCXSingle コマンドオプションの対応一覧

タブ名	パラメータ設定項目名	UCXSingle オプション名
基本設定	動作設定名	コマンド引数
	UCX サーバ名(または IP アドレス)	-h ^{注2}
データファイル詳細	データファイル名	コマンド引数
	エンコード自動判別	-c ^{注3}
	エンコーディング名	
	データファイル種別	-8/--utf8 -f/--not-utf8
結果	処理後のデータファイルの扱い	-d or -r or -u
	UCX サーバの処理結果を待つ	-F ^{注4}
	処理ページ数	-K
	文書管理番号	-N
	出力ファイルを UCX クライアントにダウンロードする	-G or -g ^{注5}
出力ファイル名		
同一ファイル名が存在する場合、上書き保存する		
	出力ファイルのダウンロード時にファイル圧縮を行う	-z
クリティカルポイント警告 ^{注1}	—	—
その他 ^{注1}	—	—

- 注 1. JobCenter のジョブ制御に関する設定タブです。UCXSingle コマンドオプションに対応する設定項目はありません。
- 注 2. JobCenter から UCXSingle ジョブを投入する場合、UCX サーバ名(または IP アドレス)の省略はできません。(省略による localhost の暗黙の指定はできません。)
- 注 3. エンコーディング自動判別を OFF とした場合、エンコーディング名が設定できます。
- 注 4. 設定のラジオボタンのチェックが OFF の場合、-F オプションが指定されます。
- 注 5. 上書き保存する場合 -G オプションが指定され、そうでない場合は -g オプションが指定されません。出力ファイル名はオプションの引数として指定されます。

JobCenter がサポートしていない UCXSingle コマンドのオプションは以下の通りです。

表 3-2 JobCenter がサポートしていない UCXSingle コマンドオプションの一覧

オプション名	動作概要
-D/--adjustd	ドット単位での印字位置の調整
-k/--keepalive	秒単位のキープアライブ時間の指定
-l/--logfile	処理実行時のログ出力
-M/--adjustm	ミリ単位での印字位置の調整
-p/--port	Universal Connect/X サーバのポート番号の指定
-s/--show-created-file-name	Java 関連実行部により生成された出力ファイルのファイル名の表示
-t/--timeout	秒単位でタイムアウト時間の指定
-T/--show-total-pages	1JOB 間の印刷ページ数のみ取得し、ファイルを出力しない
-n/--nolog	処理実行時のログを出力しない
-v/--version	UCXSingle のバージョンの表示
--help	ヘルプの表示

3.2 UCXSingle ジョブの実行条件（パラメータ）を設定する

UCXSingle ジョブのパラメータの設定では、現在 UCXSingle ジョブに設定されているパラメータの参照および変更ができます。

- ① 選択した UCXSingle ジョブアイコンをダブルクリックするか、右クリックしたときのポップアップメニューから [パラメータ] を選択します。
- ② [UCXSingle ジョブパラメータの設定] ダイアログが表示されます。

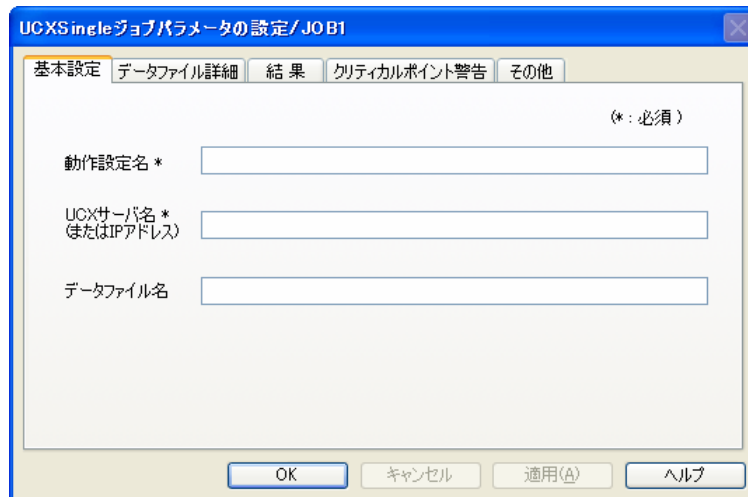


図 3-1 [UCXSingle ジョブパラメータの設定] ダイアログ画面例

- ③ [基本設定]、[データファイル詳細]、[結果]、[クリティカルポイント警告] および [その他] の各タブにおいて設定を行います。
- ④ 設定後、[OK] ボタンをクリックします。

[UCXSingle ジョブパラメータの設定] ダイアログでは、[基本設定]、[データファイル詳細]、[結果]、[クリティカルポイント警告] および [その他] の各タブで次の設定ができます。

(1) [基本設定] タブ

UCXSingle ジョブの処理に関する基本的な設定を行います。

■ 動作設定名

Universal Connect/X の動作設定アプレットで設定されている JOBID を指定します。
 テキスト入力域に半角英数字で、最大 512 文字以内で入力します。
 本設定項目は必須の設定項目です。

■ UCX サーバ名（または IP アドレス）

Universal Connect/X のサーバ名、もしくは、IP アドレスを指定します。サーバ名を指定する場合は、名前解決が可能となるようサーバをセットアップしてください。
 テキスト入力域に半角英数字で、最大 255 文字以内で入力します。

本設定項目は必須の設定項目です。

■ データファイル名

実際に印刷するデータファイル名を設定します。

テキスト入力域にUCXSingleジョブを実行するJobCenter上（図 3-2、図 3-3を参照）のファイル名を絶対パス表記、512 文字以内で入力します。2 バイト文字は設定できません。

本設定項目を設定しない場合は、帳票サーバ上にデータファイルが配置される構成である必要があります。

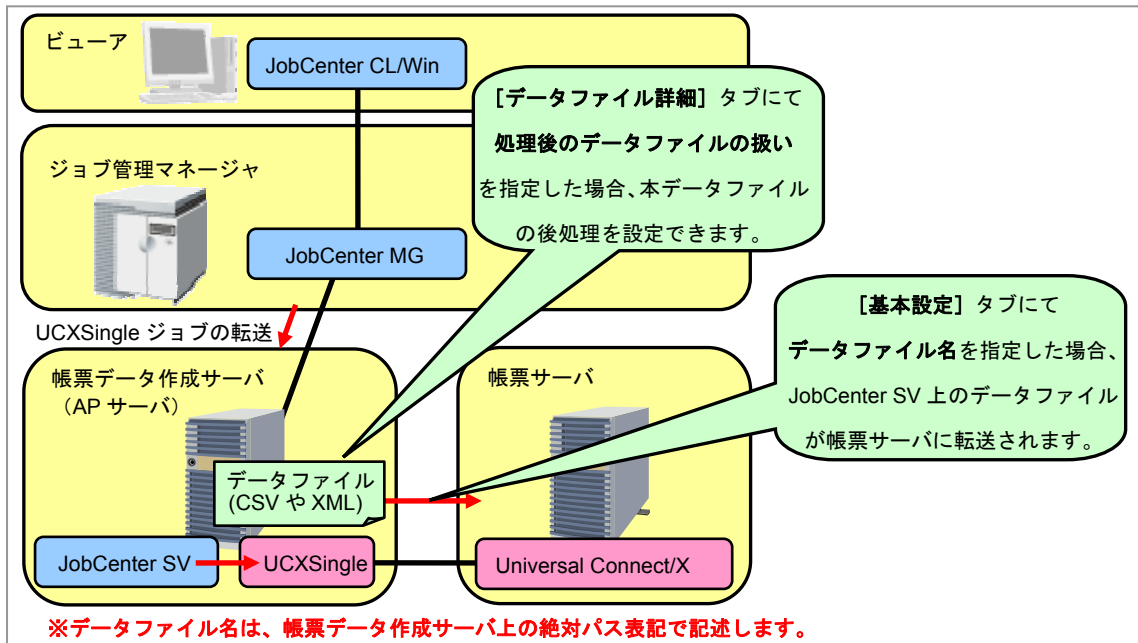


図 3-2 データファイル名設定時の帳票データ転送イメージ 1

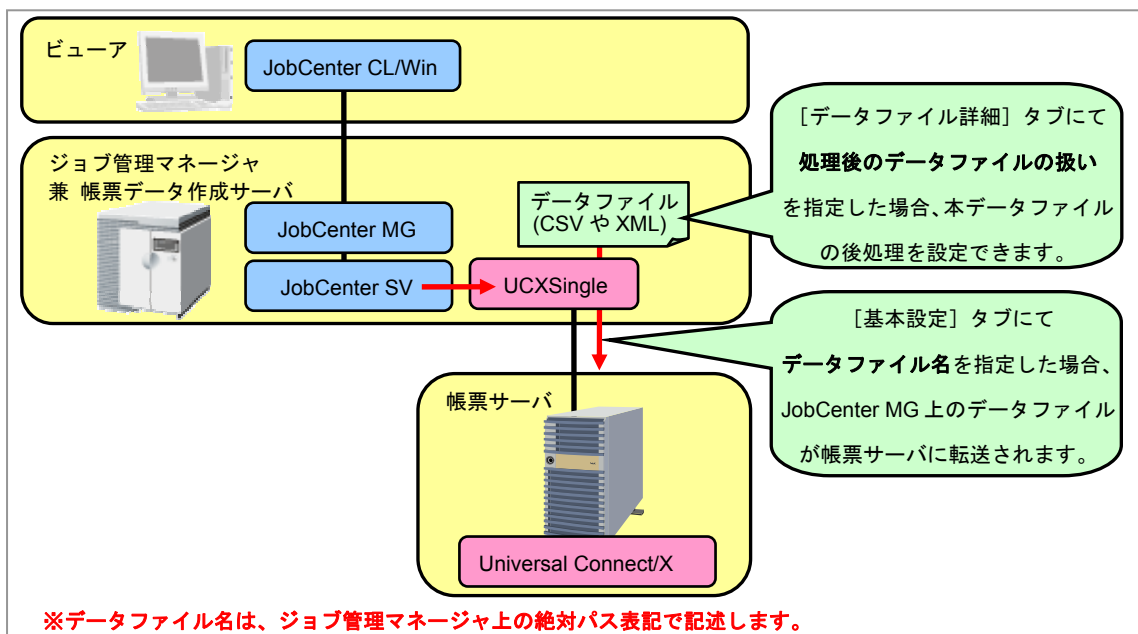


図 3-3 データファイル名設定時の帳票データ転送イメージ 2

(2) [データファイル詳細] タブ

UCXSingle ジョブのデータファイルの詳細設定を行います。

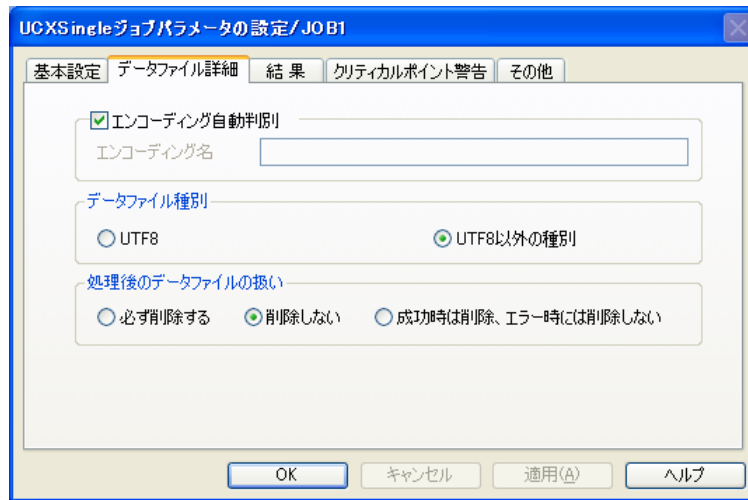


図 3-4 [UCXSingle ジョブパラメータの設定] - [データファイル詳細] 画面例

■ エンコーディングの自動判別

データファイルのエンコーディングの動作を指定します。デフォルトではチェックボックスのチェックがある状態です。

チェックあり	エンコードを指定せずに UCXSingle の処理が命令されます。 (Universal Connect/X サーバの設定に従いエンコードされます。)
チェックなし	CSV データファイルあるいは XML データファイルをエンコードする場合のエンコーディング名を指定します。 テキスト入力域に半角英数字で、最大 512 文字以内で入力します。

■ データファイル種別


データファイルが UTF-8 フォーマットであるかどうかを指定します。デフォルトは、UTF8 以外の種別です。

UTF8	データファイルが UTF-8 フォーマットの場合に指定します。
UTF8 以外の種別	データファイルが UTF-8 フォーマットでない場合に指定します。

■ 処理後のデータファイルの扱い

UCXSingleの処理後に、UCXSingleジョブを実行するJobCenter上 (図 3-2、図 3-3を参照) のデータファイルを削除するかどうかを指定します。デフォルトは、削除しないです。

必ず削除する	処理後、データファイルを必ず削除します。
削除しない	処理後、データファイルを削除しません。
成功時は削除、エラー時には削除しない	処理が異常終了した場合にデータファイルを削除しません。

 本設定は、データファイル名を指定した場合に有効となります。

(3) [結果] タブ

UCXSingle ジョブの処理結果に関する設定を行います。

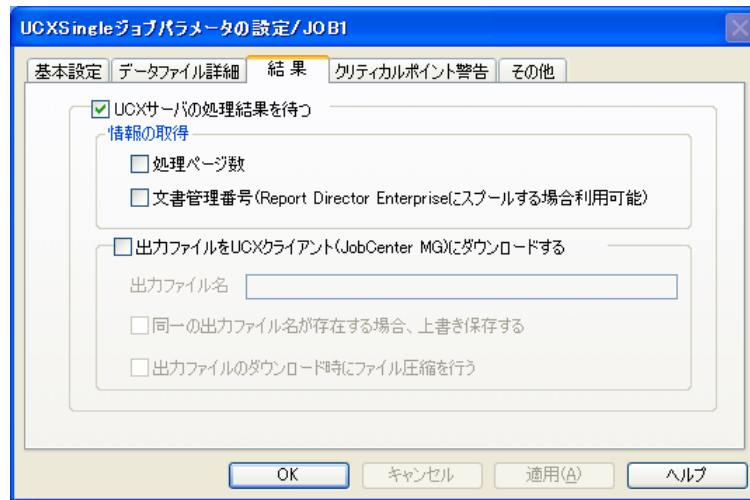


図 3-5 [UCXSingle ジョブパラメータの設定] - [結果] 画面例

■ UCX サーバの処理結果を待つ

チェックあり	UCX サーバの処理の結果を待ち合わせて UCXSingle ジョブが終了します。
チェックなし	UCX サーバ側へデータファイルの転送をおこない、その転送完了通知を UCX サーバから受け取り、UCX サーバでの処理終了結果を待たずに UCXSingle ジョブが終了します。印刷処理自体は UCX サーバ上で継続・終了します。

! 本設定をチェックなしとする場合は、UCX サーバへデータファイルの転送が必須となりますので、[基本設定] タブにてデータファイル名を設定してください。

[情報の取得]

UCXSingle ジョブの処理結果とともに情報を取得するかを設定できます。取得した結果は、UCXSingle ジョブトラッカの詳細情報タブに表示されます。

処理ページ数	チェックありの場合、1JOB 間の印刷ページ数を取得します。
文書管理番号 (Report Director Enterprise にスプールする場合利用可能)	チェックありの場合、Report Director Enterprise にスプールする際の文書管理番号を取得します。

【出力ファイルを UCX クライアント(JobCenter MG)にダウンロードする】

出力ファイルを UCX クライアント (JobCenter MG) にダウンロードするかどうかを設定できます。

チェックあり	<p>出力ファイルを UCX クライアントにダウンロードします。</p> <p>[データファイル名] の指定が必須となります。</p> <p>[データファイル名] のテキスト入力域に出力ファイル名を絶対パス表記で 512 文字以内で入力します。2 バイト文字は設定できません。</p> <p>以下の 2 点が追加で設定できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 【同一の出力ファイル名が存在する場合、上書き保存する】 <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="vertical-align: top;">チェックあり</td> <td>ダウンロード先のパスに同一の出力ファイル名が存在する場合にファイルを上書き保存します。</td> </tr> <tr> <td style="vertical-align: top;">チェックなし</td> <td>上書きせずにユニークなファイル名をつけます。</td> </tr> </table> <ul style="list-style-type: none"> ● 【出力ファイルのダウンロード時にファイル圧縮を行う】 <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="vertical-align: top;">チェックあり</td> <td> <p>出力ファイルを Universal Connect/X サーバから UCXSingle 実行環境に転送する際に、ファイルを圧縮します。</p> <p>(転送中の通信データがファイル圧縮されるだけで、ダウンロードされて配置されたファイルは圧縮されていません。)</p> </td> </tr> <tr> <td style="vertical-align: top;">チェックなし</td> <td>ファイルを圧縮しません。</td> </tr> </table>	チェックあり	ダウンロード先のパスに同一の出力ファイル名が存在する場合にファイルを上書き保存します。	チェックなし	上書きせずにユニークなファイル名をつけます。	チェックあり	<p>出力ファイルを Universal Connect/X サーバから UCXSingle 実行環境に転送する際に、ファイルを圧縮します。</p> <p>(転送中の通信データがファイル圧縮されるだけで、ダウンロードされて配置されたファイルは圧縮されていません。)</p>	チェックなし	ファイルを圧縮しません。
チェックあり	ダウンロード先のパスに同一の出力ファイル名が存在する場合にファイルを上書き保存します。								
チェックなし	上書きせずにユニークなファイル名をつけます。								
チェックあり	<p>出力ファイルを Universal Connect/X サーバから UCXSingle 実行環境に転送する際に、ファイルを圧縮します。</p> <p>(転送中の通信データがファイル圧縮されるだけで、ダウンロードされて配置されたファイルは圧縮されていません。)</p>								
チェックなし	ファイルを圧縮しません。								
チェックなし	出力ファイルを UCX クライアントにダウンロードしません。								

(4) **【クリティカルポイント警告】 タブ**

指定した時刻になってもその部品の実行が開始されないときおよび終了しないときに、警告メッセージを出力します。またそのときの操作を指定します。

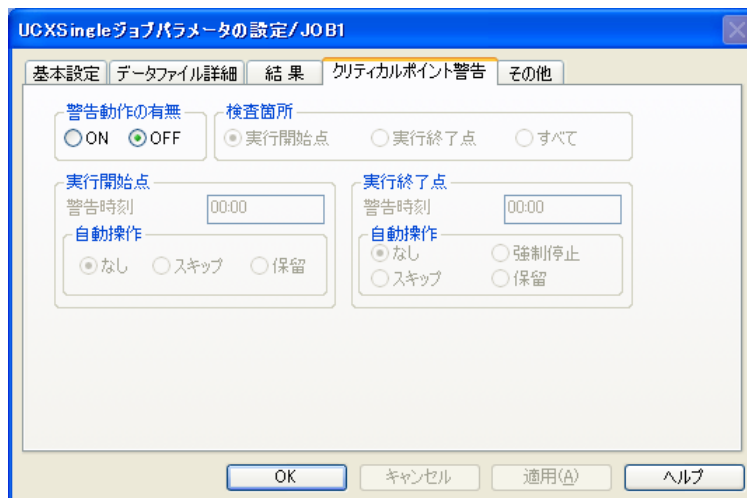


図 3-6 【UCXSingle ジョブパラメータの設定】 - 【クリティカルポイント警告】 画面例

■ 警告動作の有無

「ON」の場合クリティカルポイント警告機能が動作します。

「OFF」の場合は動作しません。

■ 検査箇所

検査の実行箇所を次から選択します。（クリティカルポイント警告機能動作中）

実行開始点	指定した時刻になってもその部品の実行が開始しないときに、警告メッセージを出力し、指定した動作を行います。
実行終了点	指定した時刻になってもその部品の実行が終了しないときに、警告メッセージを出力し、指定した動作を行います。
すべて	実行開始点と実行終了点の両方で指定した時刻になってもその部品の実行が開始または終了しないときに、警告メッセージを出力し、指定した動作を行います。

■ 実行開始点

部品の予想開始時刻と、その時刻に開始されないときの操作を指定します。

【警告時刻】

検査実行の時刻を 24 時間制の時刻（HH:MM）か、相対時間（実行開始からの経過時間（+HHH:MM））を次の範囲から指定します。

UCXSingle ジョブのクリティカルポイント警告を相対時間で設定した場合、基準となる時刻は最上位の親ジョブネットワークの予定開始時刻となります。

絶対時刻	00:00～23:59
相対時間	+000:00～+999:59

【自動捜査】

警告発生時に、その部品に対して行う操作を次から選択します。

なし	警告発生時に、自動操作を行いません。
スキップ	警告発生時に、その部品をスキップします。
保留	警告発生時に、その部品を保留します。

■ 実行終了点

部品の予想終了時刻と、その時刻に終了されないときの操作を指定します。

【警告時刻】

検査実行の時刻を 24 時間制の時刻（HH:MM）か、相対時間（実行開始からの経過時間（+HHH:MM））を次の範囲から指定します。

UCXSingle ジョブのクリティカルポイント警告を相対時間で設定した場合、基準となる時刻は最上位の親ジョブネットワークの予定開始時刻となります。

絶対時刻	00:00～23:59
相対時間	+000:00～+999:59

【自動操作】

警告発生時に、その部品に対して行う操作を次から選択します。

なし	警告発生時に、自動操作を行いません。
強制停止	警告発生時に、その部品を強制停止します。
スキップ	警告発生時に、その部品をスキップします。
保留	警告発生時に、その部品を保留します。

(5) [その他] タブ

UCXSingle ジョブに関してその他の設定を指定します。

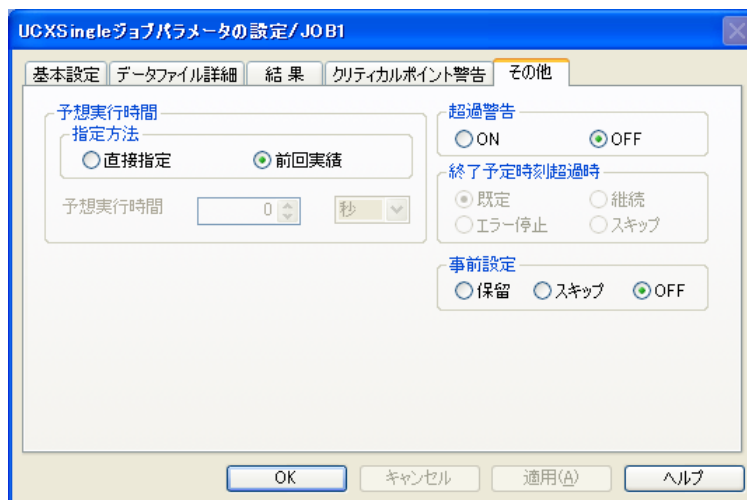


図 3-7 [UCXSingle ジョブパラメータの設定] - [その他] 画面例

■ 予想実行時間

UCXSingle ジョブの実行にかかる時間の予測値を設定します。この予測時間はトラッカー一覧のグラフィックモード（ガントチャート）などに反映されます。ジョブネットワークの実行時間計算に使用されます。

[指定方法]

次から選択します。

直接指定	ユーザ環境設定値を UCXSingle ジョブの予想実行時間とします。
前回実績	その UCXSingle ジョブが正常終了した最近の実行実績を、UCXSingle ジョブの予想実行時間とします。

[予想実行時間]

「指定方法」において「直接指定」を選択した場合、ユーザ側で時間を入力します。時間の数値と単位は次のいずれかを選択することができます。（ ）内は設定範囲です。

秒	(0~31536000)
分	(0~525600)
時間	(0~8760)
日	(0~365)

■ 超過警告

予想実行時間を過ぎても UCXSingle ジョブが終了しない場合に、統合監視サービスや Windows イベントログに警告メッセージを出力するかどうか設定します。

「ON」の場合に警告メッセージを出力します。

「OFF」の場合は警告メッセージを出力せず、次に説明する終了予定時刻超過時の動作も行われません。

■ 終了予定時刻超過時

超過警告「ON」の場合に、予想実行時間を過ぎても UCXSingle ジョブが終了しない場合の動作を次から選択します。

既定	ユーザ環境設定に従います。
継続	UCXSingle ジョブの実行を継続します。
エラー停止	UCXSingle ジョブの実行を停止します。
スキップ	UCXSingle ジョブの実行をスキップします。

■ 事前設定


ジョブをあらかじめ保留またはスキップ状態にしておきます。

保留	ジョブネットワーク投入時に当該 UCXSingle ジョブを保留状態にします。
スキップ	ジョブネットワーク投入時に当該 UCXSingle ジョブをスキップ状態にします。
OFF	ジョブネットワーク投入時に当該 UCXSingle ジョブを保留状態およびスキップ状態にしません。

4. UCXSingleジョブトラッカアイコンを操作する

- 4.1 UCXSingleジョブトラッカアイコンの状態
- 4.2 UCXSingleジョブトラッカアイコンの操作
- 4.3 UCXSingleジョブトラッカウィンドウの詳細情報を参照する

4.1 UCXSingleジョブトラッカアイコンの状態

[ジョブネットワークトラッカ] ウィンドウの [フロー] タブの中で、UCXSingleジョブトラッカアイコン、ラベル、 のボタンによって表示されるジョブ一覧画面のUCXSingleジョブの状況、トラッカの色の関係を次の表 4-1に示します。

色の設定は変更することができます。詳細については、「JobCenter 環境構築ガイド 6.6 色の設定を変更する」を参照してください。

表 4-1 UCXSingle ジョブトラッカのアイコン、ラベル、状況、トラッカの色の関係

アイコン	ラベル	状況	色	説明
	WAIT	予定	水色	実行が予定されています。
	SUBMIT	投入	黄	UCXSingle ジョブが投入されて、キューの中で待っている状態です。
	RUN	実行中	黄	UCXSingle ジョブが実行中です。
	DONE	正常終了	緑	UCXSingle ジョブが正常終了しました。
	SKIP	スキップ済	緑	実行はスキップされました。
	KILLED	中断済	緑	スキップ処理により、実行は中断されました。
	STOP	エラー停止	赤	エラー発生のため実行を停止しています。
	ERROR	異常終了	赤	エラーが発生して終了しました。
	ABORT	中断	赤	異常が発生し、実行は中断されました。
	SKIP	分岐スキップ済	薄灰	条件分岐やカレンダー分岐の設定によって UCXSingle ジョブは1度も実行されず、スキップされました。

スキップ予定のものにはこれらの「状況」の右側に [スキップ] が表示され、保留されているものには [保留] が、アーカイブされているものには [アーカイブ済] がそれぞれ表示されます。

4.2 UCXSingleジョブトラッカアイコンの操作

ジョブネットワークトラッカ内の UCXSingle ジョブアイコンを選択し、右クリックすると UCXSingle ジョブトラッカに対して可能な操作がポップアップメニューに表示されます。

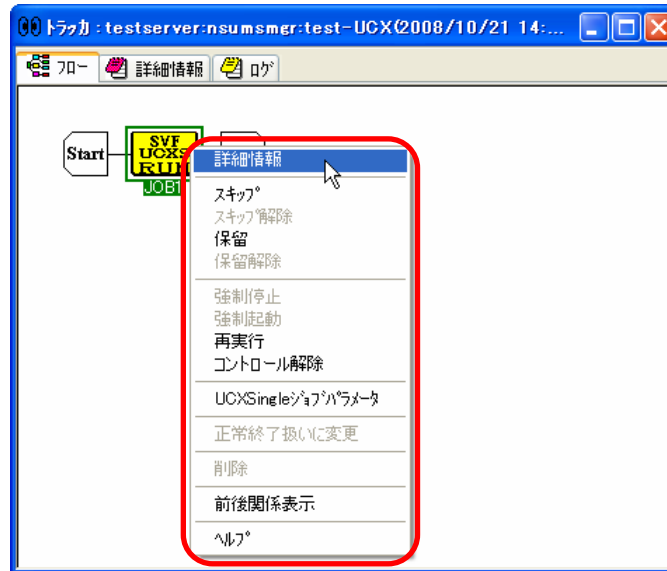


図 4-1 UCXsingle ジョブトラッカアイコン操作画面例

ポップアップメニューから行える操作は次のとおりです。

■ 詳細情報


UCXSingle ジョブの実行情報を参照することができます。

■ スキップ

実行中の UCXSingle ジョブは中断して以降のジョブを実行します。また UCXSingle ジョブの状態にかかわらず UCXSingle ジョブにスキップマークをつけます。スキップマークのついた UCXSingle ジョブは実行順が来ても実行しません。

実行前の状態では、その UCXSingle ジョブをスキップ予定とします。スキップ予定の UCXSingle ジョブは実行順序が来ても実行されず、次のジョブの実行に移ります。

実行後の状態では、スキップ予定となり再実行時にスキップします。

スキップ予定のものにはアイコンにスキップの矢印  がつきます。


■ スキップ解除

[スキップ] によってつけられたスキップ予定を解除します。

■ 保留

UCXSingle ジョブを保留状態にします。保留状態の UCXSingle ジョブは実行順序が来ても保留解除されるまで待ち合わせます。

保留操作は実行前または実行後の UCXSingle ジョブに対してのみ有効です。実行後の UCXSingle ジョブを保留した場合は再実行時に待ち合わせとなります。

保留されているものには手の印  がつきます。

■ 強制停止

実行中の UCXSingle ジョブを中断します。UCXSingle のプロセスには SIGKILL シグナルが送られます。ジョブネットワークの実行は停止します。

■ 強制起動

この UCXSingle ジョブ以降の待ち合わせ中のジョブを強制的に実行開始します。

■ 再実行

この UCXSingle ジョブ以降の実行済みジョブを再実行します。

■ コントロール解除

この UCXSingle ジョブを JobCenter の監視下から切り離します。対象となる UCXSingle ジョブは表示上エラー状態となり、実行結果の取得は行いません。ジョブネットワークの処理はコントロール解除された UCXSingle ジョブの次の部品から引き続き行われます。

■ UCXSingle ジョブパラメータ

この UCXSingle ジョブに現在設定されているパラメータが表示されます。

詳細については、「3.2 UCXSingleジョブの実行条件（パラメータ）を設定する」を参照してください。

■ 正常終了扱いに変更

異常終了、警告終了している UCXSingle ジョブを正常終了扱いに変更します。

■ 削除

この UCXSingle ジョブを削除します。

■ 前後関係表示

この UCXSingle ジョブの前後関係を表示します。詳細については、「JobCenter 基本操作 6.20 トラッカの前後関係を表示する」を参照してください。

■ ヘルプ

UCXSingle ジョブトラッカに関するヘルプを表示します。

4.3 UCXSingleジョブトラッカウィンドウの詳細情報を参照する

- ① UCXSingle ジョブの実行トラッカを表すアイコンをダブルクリックまたは右クリックしたときのポップアップメニューから [詳細情報] を選択します。
- ② [UCXSingle ジョブトラッカ] ウィンドウを開きます。UCXSingle ジョブの実行情報や実行結果を参照します。

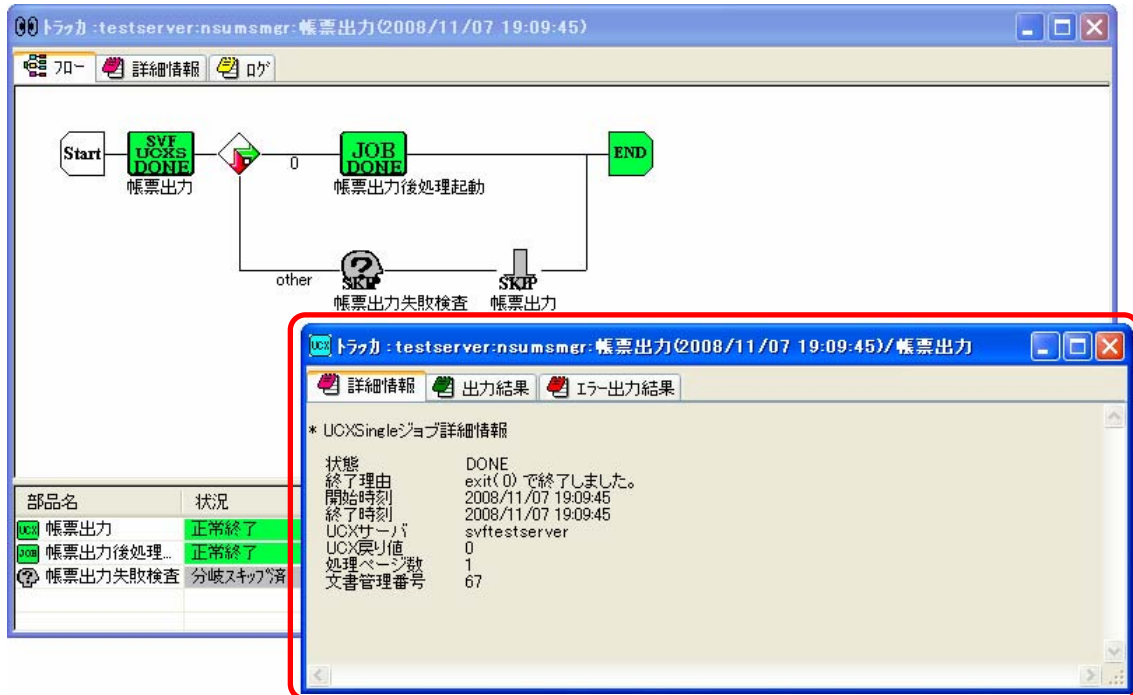


図 4-2 [UCXSingle ジョブトラッカ] ウィンドウ画面例


[UCXSingle ジョブトラッカ] ウィンドウには [詳細情報]、[出力結果]、[エラー出力結果]、[スクリプト] の各タブがあります。

表 4-2 [UCXSingle ジョブトラッカ] ウィンドウのタブ一覧

タブ	内容
[詳細情報]	UCXSingle ジョブの実行情報を参照することができます。
[出力結果]	UCXSingle プロセスから標準出力に出力された内容です。
[エラー出力結果]	UCXSingle プロセスから標準エラー出力に出力された内容です。 なお、JobCenter の jnwengine プロセスがエラー出力結果タブにメッセージを出力する場合は「jnwengine:」もしくは、「Unable to execute UCXSingle job」で始まるメッセージが表示されます。

[詳細情報] タブには次に説明する [状態]、[終了理由]、[開始時刻]、[終了時刻]、[UCX サーバ] [UCX 戻り値]、[処理ページ数]、[文書管理番号] があります。

表 4-3 [詳細情報] タブの項目一覧

タブ	内容
状態	UCXSingle ジョブトラッカの状態を表示します。
終了理由	UCXSingle ジョブの終了理由を表示します。 正常終了した場合は「exit(0)で終了しました」と表示します。 異常終了した場合は UCX のエラー番号、およびエラー番号に対応するメッセージを表示します。エラー番号および対応するメッセージの詳細については、Universal Connect/X のマニュアルを参照してください。
開始時刻	UCXSingle ジョブが開始された日時を表示します。
終了時刻	UCXSingle ジョブが終了した日時を表示します。
UCX サーバ	UCXSingle の処理を実行するマシン名が表示されます。
UCX 戻り値	UCX の戻り値を表示します。
処理ページ数	UCXSingle ジョブパラメータの設定で処理ページ数を取得する設定の場合、取得したページ数を表示します。 取得をしない設定やまだ処理結果を受け取っていない場合、“-” を表示します。
文書管理番号	UCXSingle ジョブパラメータの設定で文書管理番号を取得する設定の場合、取得した文書管理番号を表示します。 取得をしない設定やまだ処理結果を受け取っていない場合、“-” を表示します。  RDE に文書がスプールされない設定の環境についても UCXSingle プロセスが Universal Connect/X から文書管理番号を受け取れないため、“-” を表示します。

5. UCXSingle ジョブの関連機能

UCXSingle ジョブに関連する機能について説明します。

-
- 5.1 部品オブジェクトの設定について
 - 5.2 部品検索でUCXSingleジョブのトラックを検索する
 - 5.3 UCXSingleジョブのデフォルトパラメータを設定する

5.1 部品オブジェクトの設定について

部品オブジェクトの使用方法について、UCXSingle ジョブに関連する動作仕様、および UCXSingle ジョブの機能追加に伴う変更点について説明します。

- 5.1.1 UCXSingleジョブの後ろに条件分岐部品を配置する
- 5.1.2 コンティニューの行き先にUCXSingleジョブを設定する
- 5.1.3 ジョブ待ち合わせでUCXSingleジョブを待ち合わせする

5.1.1 UCXSingleジョブの後ろに条件分岐部品を配置する

UCXSingle ジョブの後ろに条件分岐部品があるジョブネットワークで、UCXSingle ジョブの実行が正常終了した場合、終了コードは0となります。

UCXSingle ジョブの実行が異常終了した場合やスキップされた場合、条件分岐で 0,other 以外を設定している、いないに関わらず、フロー処理は other に進みます。

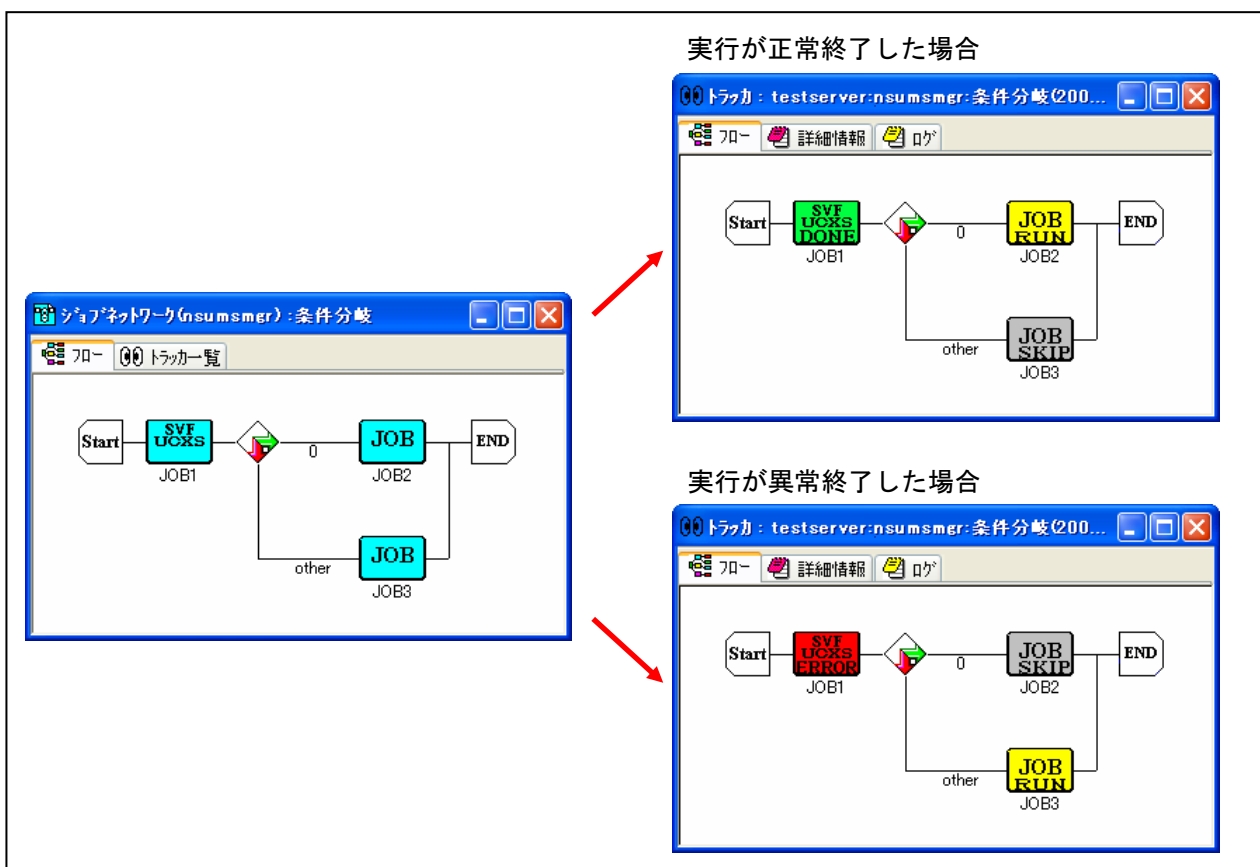


図 5-1 条件分岐の画面例

5.1.2 コンティニューの行き先にUCXSingleジョブを設定する

以下の手順でコンティニューオブジェクトの行き先に UCXSingle ジョブを指定します。

- ① コンティニューオブジェクトを配置します。
- ② [コンティニューの設定] ダイアログが表示されます。
(オブジェクト配置後は、コンティニューアイコンをダブルクリックするか、右クリックしたときのポップアップメニューから [設定] を選択すると、[コンティニューの設定] ダイアログが表示されます。)
- ③ コンティニューの行き先に UCXSingle ジョブを選択し、コンティニューの設定を行います。

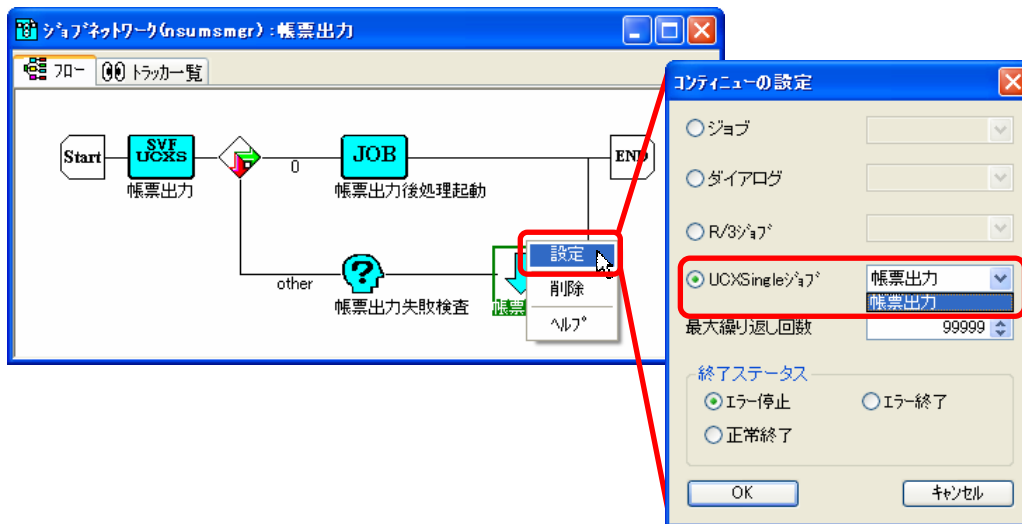


図 5-2 コンティニューオブジェクト設定画面例

- ④ 設定後、[OK] ボタンをクリックします。

5.1.3 ジョブ待ち合わせでUCXSingleジョブを待ち合わせする

以下の手順でジョブ待ち合わせオブジェクトを用いて UCXSingle ジョブを待ち合わせることができます。

(1) 同じジョブネットワークに所属するUCXSingleジョブの待ち合わせ

- ① ジョブ待ち合わせオブジェクトを配置します。
- ② [ジョブ待ち合わせの設定] ダイアログが表示されます。
(オブジェクト配置後は、ジョブ待ち合わせアイコンをダブルクリックするか、右クリックしたときのポップアップメニューから [設定] を選択すると、[ジョブ待ち合わせの設定] ダイアログが表示されます。)
- ③ ジョブ待ち合わせの設定を行います。

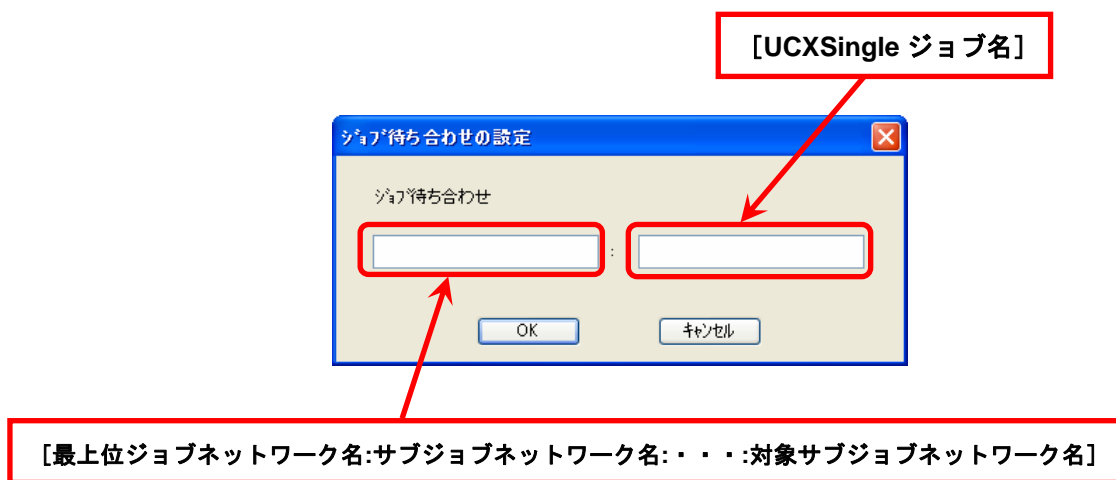


図 5-3 ジョブ待ち合わせの設定画面例

- ④ 右側のボックスには待ち合わせの対象とする UCXSingle ジョブ名を指定します。
 - ⑤ 左側のボックスにはその UCXSingle ジョブが所属するジョブネットワーク名を指定します。
[(対象ジョブネットワークが属する) 最上位ジョブネットワーク名:サブジョブネットワーク名:・・・:対象サブジョブネットワーク名] の形式で記述します。ジョブネットワーク名の指定を省略した場合は、ジョブ待ち合わせ部品を設定したジョブネットワーク自身が対象となります。
 - ⑥ 設定後、[OK] ボタンをクリックします。
- (2) ジョブ待ち合わせ部品が所属するジョブネットワークまたはサブジョブネットワーク以外のジョブネットワーク、および他ユーザのジョブネットワーク中の UCXSingleジョブの待ち合わせ

5.1.3の④において、[ジョブ待ち合わせの設定] ダイアログの左側のボックスに、[:ユーザ名:最上位ジョブネットワーク名:・・・:最下位サブジョブネットワーク名] の形式で記述します。

5.2 部品検索でUCXSingleジョブのトラッカを検索する

部品検索の機能については、「JobCenter 基本操作ガイド 6.19 部品検索を行う」を参照してください。

部品検索の検索対象となる部品は単位ジョブ、ERP ジョブ、BI ジョブ、UCXSingle ジョブ、サブジョブネットワーク、ダイアログ部品、イベント送信部品、イベント受信部品の 8 つです。

UCXSingle ジョブのトラッカを検索する場合は、検索条件の指定の [ON] を選択し、[タイプ別検索] の UCXSingle ジョブにチェック入れます。設定後、[検索] ボタンをクリックして検索を開始します。

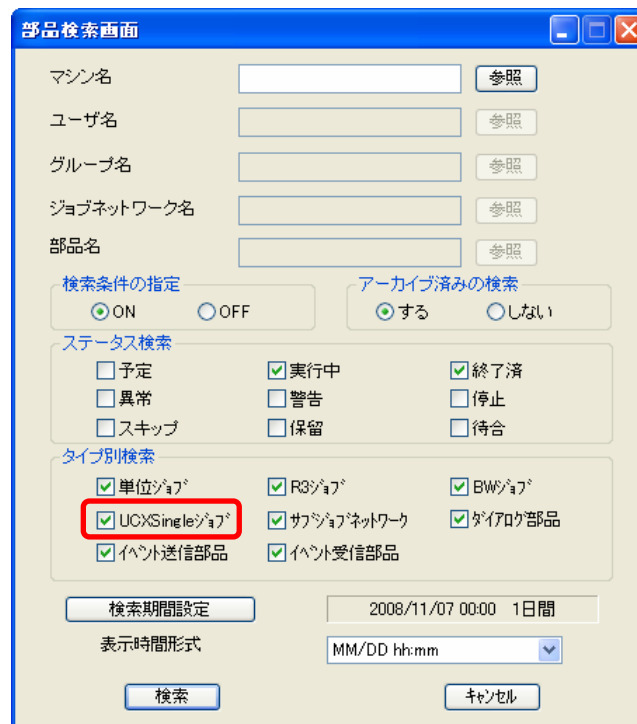


図 5-4 「部品検索画面」ウィンドウ画面例

5.3 UCXSingleジョブのデフォルトパラメータを設定する

メニューバーの [設定] - [パラメータの設定] から、各オブジェクトのパラメータのデフォルト値の定義および JobCenter CL/Win が持っている出荷時の値（既定値）で、各部品のデフォルトパラメータの更新ができます。

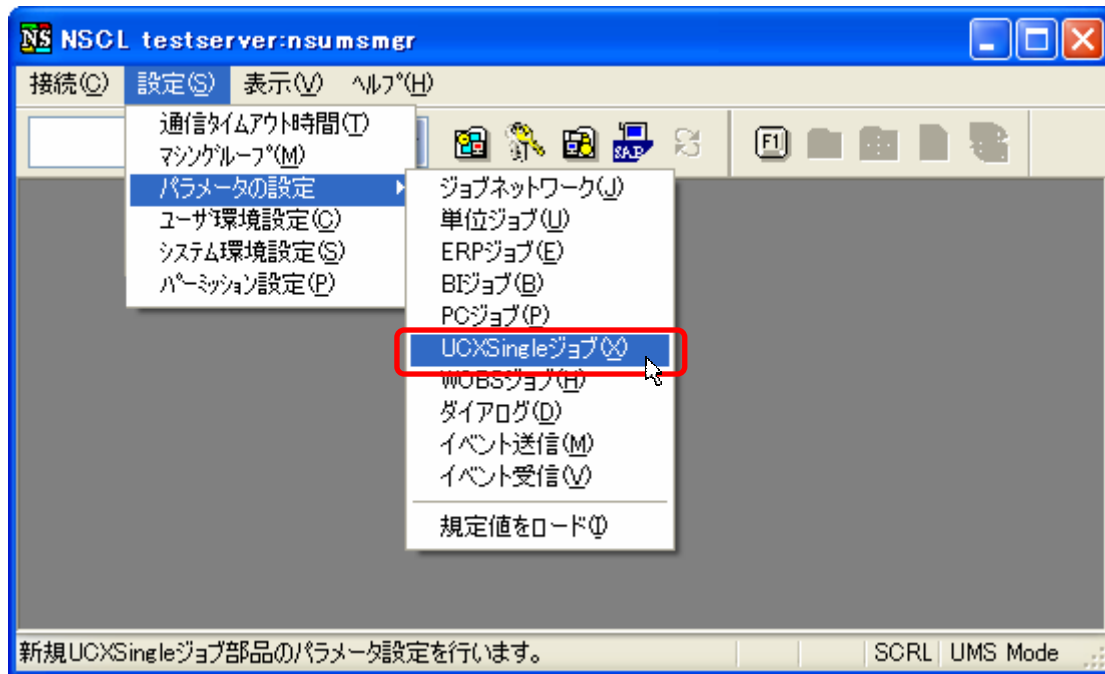


図 5-5 【UCXSingle ジョブのデフォルトパラメータ】のメニュー選択画面例

【UCXSingle ジョブのデフォルトパラメータ】ダイアログで、UCXSingle ジョブのパラメータデフォルト値を設定します。

UCXSingleジョブのパラメータ設定については、「3.2 UCXSingleジョブの実行条件（パラメータ）を設定する」を参照してください。



【UCXSingle ジョブのデフォルトパラメータ】のダイアログでは、必須の設定項目はありません。実際にジョブネットワークフロー上に UCXSingle ジョブを配置して設定を保存する際に、必須の設定項目がチェックされます。

5.4 エラー発生時のメール送信機能について

ジョブネットワークのパラメータを設定して実行されたジョブ／部品でエラーが発生したときに、指定された宛先にメールを送信してエラーを通知する機能があります。UCXSingle ジョブでエラーが発生した場合について説明します。

エラー発生時のメール送信機能の詳細については、「JobCenter 基本操作ガイド 11 エラー発生時のメール送信機能の設定方法」を参照してください。

5.4.1 件名、本文に使用可能なマクロについて

UCXSingle ジョブでエラーが発生した場合について、以下のマクロが利用可能です。

%jobname%	ジョブ名
%jobstarttime%	エラーの発生したジョブ部品の開始時刻
%jobendtime%	エラーの発生したジョブ部品の終了時刻
%exitcode%	エラーの発生したジョブの終了コード
%stdout%	標準出力
%stderr%	標準エラー出力



エラーの発生したUCXSingleジョブの終了コードのマクロの処理結果は1となります。

ただし、「5.1.1 UCXSingleジョブの後ろに条件分岐部品を配置する」に説明されているようにUCXSingleジョブの後ろにある条件分岐はotherとして処理されます。



%stdout%、%stderr%は件名には使用できません。

6. UCXSingleジョブの注意事項・制限事項

6.1 注意事項

6.2 制限事項

6.1 注意事項

- UCXSingle ジョブの機能を使用する場合、JobCenter MG、UCXSingle ジョブが実行される JobCenter SV（構成によっては JobCenter MG と同一マシン）、および、JobCenter CL/Win を R12.8 以降のバージョンにする必要があります。
- UCXSingle ジョブを含むジョブネットワークを JobCenter R12.8 より前の JobCenter MG にインポートして実行しないでください。インポートした場合、正常動作は保証いたしません。
- 帳票として作成したPDFファイルをUCXSingleジョブの設定によりダウンロードすることができます。この場合、PDFファイルがダウンロードされるホストは、UCXSingleのモジュールが配置されるホストになります。（「1.2.2 システム構成」参照）
- UCXSingleコマンドの実行環境をセットアップする場合は、「事前確認事項」を必ず確認してください。（「2.1 UCXSingleコマンドの実行環境をセットアップする」参照）
- UCXSingleジョブの名前を設定する際の注意事項は、単位ジョブと同じです。（「2.3.1 UCXSingleジョブを作成する」参照）
- UCXSingleジョブのパラメータの設定項目とUCXSingleコマンドオプションの対応、JobCenterがサポートしていないUCXSingleコマンドオプションの一覧については、「3.1 UCXSingleコマンドオプションとの対応一覧」を参照してください。
- UCXSingleジョブのパラメータの「処理後のデータファイルの扱い」の設定項目は、データファイル名を指定した場合に有効となります。（「3.2 UCXSingleジョブの実行条件（パラメータ）を設定する」参照）
- UCXSingle ジョブのパラメータの「UCX サーバの処理結果を待つ」の設定項目について、設定をチェックなしとする場合は、UCX サーバヘデータファイルの転送が必須です。[基本設定] タブで、データファイル名を設定してください。
- UCXSingleジョブトラッカウインドウに表示されるUCXSingleジョブ詳細情報の「文書管理番号」について、取得をしない設定の場合、またはまだ処理結果を受け取っていない場合 "-" を表示しますが、RDEに文書がスプールされない設定の環境についてもUCXSingleプロセスがUniversal Connect/Xから文書管理番号を受け取れないため "-" を表示します。（「4.3 UCXSingleジョブトラッカウインドウの詳細情報を参照する」参照）
- UCXSingleジョブの後ろに条件分岐部品があるジョブネットワークで、UCXSingleジョブの実行が正常終了した場合、終了コードは0となります。UCXSingleジョブの実行が異常終了した場合やスキップされた場合、フロー処理はotherに進みます。（「5.1.1 UCXSingleジョブの後ろに条件分岐部品を配置する」参照）
- [UCXSingleジョブのデフォルトパラメータ] のダイアログでは、必須の設定項目はありません。実際にジョブネットワークフロー上にUCXSingleジョブを配置して設定を保存する際に必須の設定項目がチェックされます。（「5.3 UCXSingleジョブのデフォルトパラメータを設定する」参照）
- エラー発生時のメール送信機能について、エラーの発生したUCXSingleジョブの終了コードのマクロの処理結果は1となります。ただし、「5.1.1 UCXSingleジョブの後ろに条件分岐部品を配置する」に説明されているようにUCXSingleジョブの後ろにある条件分岐はotherとして処理されません。%stdout%、%stderr%は件名には使用できません。（「5.4.1 件名、本文に使用可能なマクロについて」参照）

6.2 制限事項

- ジョブネットワークのパラメータで設定する [シミュレーション実行] を [ON] に設定しても UCXSingle ジョブはフロー到達時に投入され、実際に処理されます。
- [ユーザフレーム] の [スケジュール表示] タブに UCXSingle ジョブは表示されません。
- jnwsummary コマンドでは UCXSingle ジョブに対する -c オプション、-p オプションの使用はサポートしていません。
- UCXSingleジョブが対応しているUCXSingleコマンドは、C版のみです。Java版には対応していません。（「1.2.2 システム構成」参照）
- UCXSingleコマンド（およびUCXSingleジョブ）にはUCXサーバの帳票出力の結果が正常か異常かを別途問い合わせる機能はありません。UCXサーバ側で帳票出力の処理を正常に完了し、UCXSingleコマンドが結果を受け取る前にサーバがダウンした場合、UCXSingleジョブのリスタートには帳票の二重出力の可能性があります。システム構築の際は上記を十分考慮の上、機能をご利用ください。（「1.3 UCXSingleジョブの機能概要」参照）
- JobCenterからUCXSingleジョブを投入する場合、UCXサーバ名(またはIPアドレス)の省略はできません。（省略によるlocalhostの暗黙の指定はできません。）（「3.1 UCXSingleコマンドオプションとの対応一覧」参照）
- UCXSingleジョブのパラメータの動作設定名は、半角英数字で、最大 512 文字以内で入力します。（「3.2 UCXSingleジョブの実行条件（パラメータ）を設定する」参照）
- UCXSingleジョブのパラメータのデータファイル名は、UCXSingleジョブを実行するJobCenter上のファイル名を絶対パス表記、512 文字以内で入力します。2 バイト文字は設定できません。本設定項目を設定しない場合は、帳票サーバ上にデータファイルが配置される構成である必要があります。（「3.2 UCXSingleジョブの実行条件（パラメータ）を設定する」参照）

7. UCXSingle ジョブのトラブルシューティング

UCXSingle ジョブに関するトラブルシューティングを説明します。

7.1 トラブルシューティングQ&A

7.1 トラブルシューティングQ&A

Q.1

UCXSingle ジョブトラッカが ERROR もしくは ABORT 状態で終了した。

UCXSingle ジョブトラッカの [詳細情報] タブの [終了理由] に

-XXXX メッセージ

の形式で情報が表示される。また、[UCX 戻り値] に -XXXX が表示される。

備考 -XXXX は 4 桁の負数

この現象が発生した場合は、UCXSingle もしくは Universal Connect/X 側でエラー番号に該当するエラーが発生しております。

Universal Connect/X のマニュアルのエラーコード表の原因と対処方法を確認して対処を行ってください。

詳細は、Universal Connect/X 製品のサポート窓口にお問い合わせください。

なお、ジョブネットワークトラッカの [ログ] タブの ucxs args: というエントリで、UCXSingle コマンド実行時のオプションを JobCenter が列挙して出力している場合があります。

設定ミスの参考事例 (事例であり原因が他に存在する可能性があります。詳細な調査は、Universal Connect/X 製品のサポート窓口に依頼してください。)

A.1

-4104 指定の設定名が見つかりません

UCXSingle ジョブのパラメータの [基本設定] タブの [動作設定名] に記述した JOBID が Universal Connect/X サーバ上に存在しない可能性があります。

-4212 ERR_INVALID_HOST 接続先ホストが正しくありません

UCXSingle ジョブのパラメータの [基本設定] タブの [UCX サーバ名 (または IP アドレス)] に設定した値が間違っている、もしくは、名前解決ができていない可能性があります。

また、Universal Connect/X サーバの SVF Java PRODUCT WEB Server Service が起動していない可能性があります。

-4205 ERR_TCP_TIMEOUT 通信タイムアウトしました

UCXSingle ジョブのパラメータに設定されているポート番号が 44080 以外に設定されている可能性、また、Universal Connect/X が無応答状態となっている可能性があります。

-4026 印刷様式中のフィールド名と一致する項目が見つかりませんでした

UTF8 以外の様式にもかかわらず、UCXSingle ジョブのパラメータの [データファイル詳細] タブの [データファイル種別] で UTF8 を指定している可能性があります。

-4971 JavaVM 内に不正な処理がありました

データファイルのコーディングが ms932 にもかかわらず、UCXSingle ジョブのパラメータの [データファイル詳細] タブの [エンコーディング名] に unicode を指定するなどエンコーディング名の指定を間違えている可能性があります。

-4207 ERR_FILE_CANT_CREATE ファイルの作成ができませんでした

UCXSingle ジョブのパラメータの [結果] タブで出力ファイルを UCX クライアントにダウンロードする設定でジョブを実行したが、実行ユーザにダウンロードパスとなるディレクトリの書き込み権限がない可能性があります。

-4211 ERR_FILE_CANT_READ ファイルの読み込みができませんでした

UCXSingle ジョブのパラメータの [基本設定] タブに設定されているデータファイルが存在しているが、実行ユーザに読み込み権限がない可能性があります。

<p>Q.2</p>	<p>UCXSingle ジョブトラッカが ERROR もしくは ABORT 状態で終了した。 UCXSingle ジョブトラッカの [詳細情報] タブの [終了理由] に UCX、または UCXSingle でエラーです。 と表示される。また、[UCX 戻り値] に 負の数が表示される。</p>
<p>A.2</p>	<p>この現象が発生した場合は、UCXSingle もしくは Universal Connect/X 側でエラーコード表に記載のないエラー番号に該当するエラーが発生しております。 詳細は、Universal Connect/X 製品のサポート窓口にお問い合わせください。</p> <p>なお、ジョブネットワークトラッカの [ログ] タブの ucxs args: というエントリで、UCXSingle コマンド実行時のオプションを JobCenter が列挙して出力している場合があります。</p>
<p>Q.3</p>	<p>UCXSingle ジョブトラッカが ERROR もしくは ABORT 状態で終了した。 UCXSingle ジョブトラッカの [詳細情報] タブの [終了理由] に 不明、または内部エラーです。 と表示される。また、[UCX 戻り値] に値が表示されていない。 UCXSingle ジョブトラッカの [エラー出力結果] タブに Unable to execute UCXSingle job without ucxsconf.f file. と表示される。</p>
<p>A.3</p>	<p>この現象が発生した場合は、JobCenter MG の/usr/lib/nqs/ucxs ディレクトリ配下の ucxsconf.f の設定ファイルが読み込まれずに JobCenter MG が起動している可能性があります。 ucxsconf.f の設定ファイルが存在しない場合は作成して設定を記述し、JobCenter MG を再起動してください。ucxsconf.f の設定ファイルが存在する場合はファイルのパーミッションを確認した上で JobCenter MG を再起動して設定を読み込ませてください。クラスタ環境の場合は、運用系、待機系の両マシンに ucxsconf.f が存在する必要があります。</p>
<p>Q.4</p>	<p>UCXSingle ジョブトラッカが ERROR もしくは ABORT 状態で終了した。 UCXSingle ジョブトラッカの [詳細情報] タブの [終了理由] に 不明、または内部エラーです。 と表示される。また、[UCX 戻り値] に値が表示されていない。 UCXSingle ジョブトラッカの [エラー出力結果] タブに Unable to execute UCXSingle job without ucxsingle command. と表示される。</p>
<p>A.4</p>	<p>この現象が発生した場合は、JobCenter MG の/usr/lib/nqs/ucxs ディレクトリ配下にある ucxsconf.f の設定ファイルに記述された UCXSingle コマンドの絶対パスに、UCXSingle のコマンドモジュールが存在していません。UCXSingle のコマンドモジュールを配置してください。 クラスタ環境の場合は、運用系、待機系の両マシンで、それぞれの ucxsconf.f の設定ファイルの記述と UCXSingle のコマンドモジュールの状況を確認してください。</p>
<p>Q.5</p>	<p>UCXSingle ジョブトラッカが ERROR もしくは ABORT 状態で終了した。 UCXSingle ジョブトラッカの [詳細情報] タブの [終了理由] に 不明、または内部エラーです。 と表示される。また、[UCX 戻り値] に値が表示されていない。 UCXSingle ジョブトラッカの [エラー出力結果] タブに jnwengine: Unable to execute command:<コマンドの絶対パス> (Permission denied) と表示される。 備考 <コマンドの絶対パス>は ucxsconf.f に設定された文字列です。</p>
<p>A.5</p>	<p>この現象が発生した場合は、<コマンドの絶対パス>で指定された UCXSingle コマンドのモジュールに実行権が付与されていません。実行権を付与してください。</p>

Q.6	UCXSingle ジョブのパラメータの [基本設定] タブで、出力ファイルを UCX クライアントにダウンロードする設定を行ってジョブを実行したが、ダウンロードされたファイルのファイルサイズが 0 であった。
A.6	Universal Connect/X サーバの動作設定アプレットで、当該 JOBID の処理の出力先が PDF ではなく、RDSpool の設定となっているため、ファイルサイズ 0 のファイルがダウンロードされた可能性があります。

